

平成30年度庄原市体力づくり研修会

平成30年6月6日（水） 会場：庄原市立東小学校

「児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりについて研修を行うことで、体育科・保健体育科の授業改善のポイントを確認し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する取組を推進する」ことを目的として研修会を実施しました。

実践発表 「児童が夢中になって運動に取り組む授業づくり」

庄原市立東小学校 梶川 匡士

- ・「声出せ 汗出せ 知恵を出せ」を合言葉に、運動に夢中になって取り組む児童の姿の共通イメージをもって研究を推進している。
- ・めざす児童の姿は、「**試行と思考を繰り返し、教え・教わる喜びを感じながら課題の解決に取り組む児童**」である。
- ・次のとおり3つの工夫を取り入れることで、児童が夢中になって取り組むことができる体育科の授業づくりを目指している。

① 自己の課題を見付けるための工夫

- ・ 単元ゴールの工夫
- ・ 課題発見の工夫



実際の授業での工夫①

② 運動の本質的な課題をクローズアップさせるための工夫

- ・ 運動の本質的な課題の理解
- ・ 児童のつまずきの把握
- ・ 核になることを教えて、考えさせる（たくさん教えすぎない）



実際の授業での工夫②

③ 課題の解決に向けて思考し判断して表現するための工夫

- ・ 試行と思考を繰り返しながらの学習

実際の授業での工夫③

研究授業 第3学年「跳び箱運動」(器械運動領域)

～自分のわざに みがきをかけよう～

庄原市立東小学校 原 圭市



- ・ **単元を貫くテーマ**「自分のわざにみがきをかけよう」を設定した。
- ・ **ICT機器を活用し、動きのイメージをもたせた。**
- ・ **技のポイント**を3つ示し、**自己の課題**を選ばせた。
- ・ 技を習得するために必要な**運動を細分化**して、**スモールステップ**で技能を身に付けさせている。
- ・ 単元のはじめに**やさしい場**を設定し、**基礎的な運動**に十分に取り組めるようにしている。
- ・ **技のポイント**をオノマトペや連続図の活用により**児童の言葉**で共有させ、アドバイスしやすくさせている。
- ・ 得意な児童と得意でない児童を一緒にした**異質協働のグループ**をつくり、**学び合いながら学習**を展開できるようにしている。

【研究授業について（事後アンケート）】

- ・ 研究授業を通して、体育科の授業における対話的な学びの実践としての方法を学ぶことができた。**運動時間の確保、人数構成等に配慮したグループ分け**によって、**対話は活性化**していたが、一方、それが**技能の習得に結び付きにくい**点から改めて、体育科における授業づくりの難しさを感じた。
- ・ **子供が自ら課題を見付けて、解決に向けて意欲的に活動している姿**がとてもよかった。また、友達と一緒に高め合っていくとする気持ちを大事にされた授業だった。
- ・ 視覚教材を活用し、**技のポイントを音で表現**するなど**運動のイメージをもたせながら授業を展開**していた点や「なかよしタイム」を設定し、**運動嫌いの子供の減少につなげる工夫**が参考になった。

協議「主体的、対話的で深い学びの授業づくりについて」



小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年7月）に示された、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの例を参考に、実際の授業においてそれぞれの学びが見られた場面、指導の工夫や手立て、さらに学びを深めるための方法についてグループに分かれて協議した。

【協議を通して参考になった内容（事後アンケート）】

- ・ 体育科の授業づくりにおいて、**声をしっかり出して体操したり、友達との会話を通して動きを改善したりすること等の雰囲気づくり**が重要であることに気付いた。また、1時間毎の**児童の伸びを視覚的に捉えられるような手立て**が児童の学習意欲につながっていくと感じた。
- ・ グループの編成、場や課題の設定、児童の対話を促す工夫について、参考になる意見を聞くことができた。**深い学びについては協議も難航したので、これからじっくり考えてみたい内容**だと感じた。

講話「体育科・保健体育科における主体的、対話的で深い学びに視点を置いた授業改善について」

愛媛大学教育学部 保健体育講座 日野 克博 准教授

【研究授業について～よりよい授業づくりに向けて～】

- 深い学びは、単元の後半で見られてくるものである。めざすゴールに向けて、**逆向きに授業をデザイン**することが大事である。
- 映像により運動のイメージをもつことはできる。しかし、力の入れ具合は映像だけでは分からない。したがって、力の入れ具合をオノマトペで表現するといった工夫も必要である。
- 指導者は、児童が何を**選ぶか考える**ことが必要である。例えば、技を選ぶ、技の**ポイント**を選ぶ、練習の場を選ぶという工夫の仕方がある。

【授業改善を推進する上で大切にしたいこと】

- 技能の差に関係なく、どの子供も**一生懸命に取り組む授業づくり**。
- **できること、できるようになるプロセス**を楽しむ授業づくり。
- 学習内容は変わらないが、**授業は変わる**という意識をもつ。
- **楽しい授業からもっと楽しい授業にする**。みんなが楽しい授業、みんなで楽しい授業にする。
- 授業づくりは、**授業での子供の姿で、勝負したい**。

【今後に向けてのアドバイス（担当者より）】

- ◎ 準備運動時のBGMや主運動前の感覚づくり運動など、これまでの体育科の授業の課題を踏まえ、工夫・改善のみられる授業であった。
- ▲ 跳び箱3段の開脚跳びは、第3学年の全児童ができていた。よくできる児童をより伸ばすための展開の工夫が必要である。
- ▲ 「技（かかえ込み跳び）にみがきをかける」という授業のねらいに対してポイントを3点に絞ったが、どうすれば技（かかえ込み跳び）ができるようになるかという視点が曖昧であった。そのため、児童が達成感を実感できなかった。